

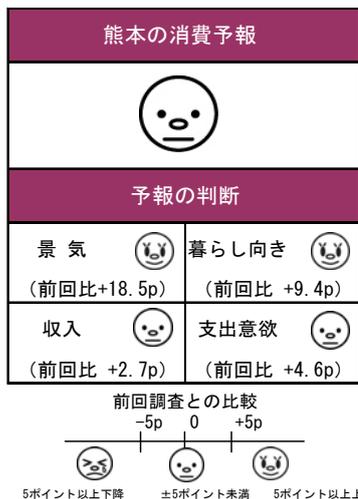
第27回 熊本の消費予報調査 (平成24年5月調査)

## 女性の生活者の消費マインド、依然として慎重

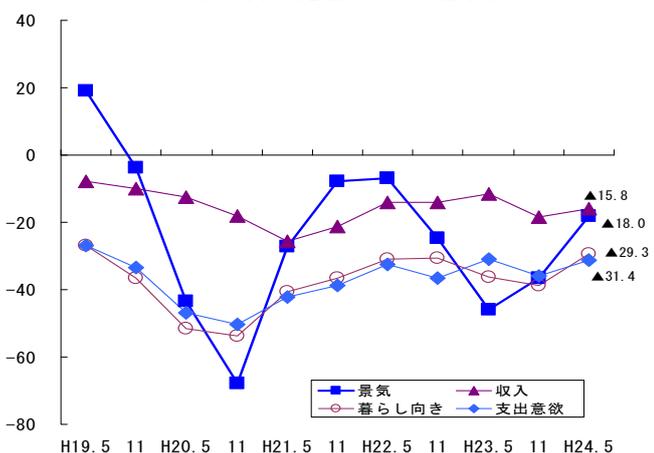
当研究所では、熊本市在住の女性モニターを対象として、平成11年5月より「熊本の消費予報調査」を実施しているが、今回はその27回目となる。本調査では、消費マインドに影響する「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲（支出の引き締め）」に対する意識と、実際の消費に関わる「収入」の増減という4つの項目について、今後半年の見通しを尋ねている。その上で、以上4つの項目と「支出」から総合的に判断し、熊本の消費予報を試みた。

### 【調査結果のポイント】

1. 「景気」の見通しDIが▲18.0と、前回は18.5ポイント（以下、p）上回り、大幅に改善した。40代は比較的厳しい見方をしているが、他の年代では、大幅な改善がみられた。「収入」の見通しDIは、前回は2.7p上回る▲15.8となり、やや改善した。30代、40代の改善幅が大きくなっている。「支出意欲」の見通しDIは▲31.4と前回は4.6p上回り、緩やかな改善がみられた。「暮らし向き」の見通しDIは▲29.3となり、前回より9.4p改善した。「支出意欲」、「暮らし向き」とも、40代を除くすべての年代で前回は上回っている。
2. 消費予報の指標とする「景気」、「収入」、「支出意欲」、「暮らし向き」の4項目すべてに改善がみられるが、教育費や社会保険料の負担増など、将来に対する不安がうかがえ、景況感は回復しても、消費マインドは依然として慎重だといえる。



### 【今後の見通しDIの推移】



### 【調査の概要】

1. 調査対象：熊本市在住の20代から60代の女性モニター500人
2. 調査期間：平成24年5月10日～21日
3. 調査方法：郵送法
4. 有効回答：417人（回答率83.4%）

### 【回答者の属性】

年代	実数(人)	構成比(%)
20代	46	11.0
30代	91	21.8
40代	93	22.3
50代	94	22.5
60代	93	22.3
合計	417	100.0

## 1. 景気の見通し

景気の見通し DI についてみると、▲18.0 と前回を 18.5 p 上回り、大きく改善している。年代別にみると、40 代は前回を 3.7 p 上回るにとどまり、比較的厳しい見方をしているが、他の年代においては、大幅な改善がみられた（図表 1、2）。東日本大震災に伴う復旧・復興への期待や、エコカー補助金復活による好調な自動車販売などから、景気の緩やかな回復を感じていると思われる。

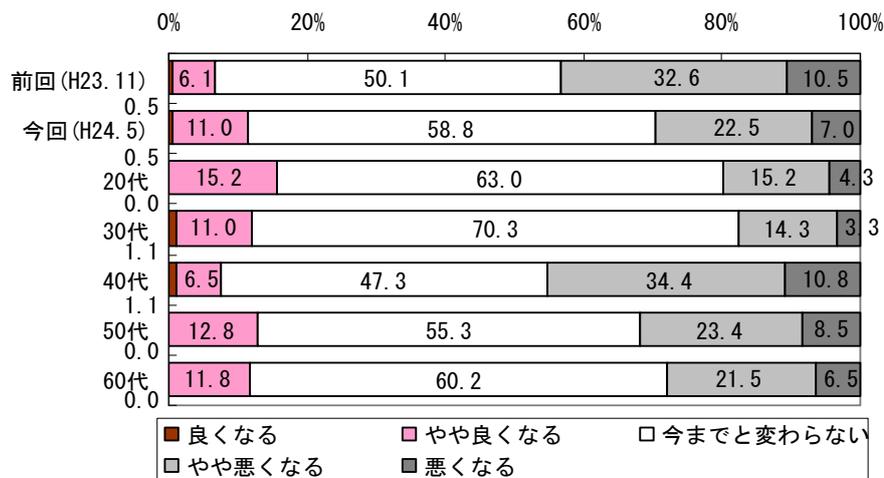
自由回答には、「企業の頑張りが出て来た感がある」、「街中の人出が増えてきた。全体的に活気が出てきたように感じる」といった意見がみられた。また、ギリシャ情勢をはじめとする欧州債務問題の影響を懸念する意見や、円高が経済に及ぼす影響、電気料金値上げ、消費税増税などへの不安を訴えるコメントもあった。

図表 1 景気の見通し DI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今 回		前 回 (H23. 11)	前々回 (H23. 5)
	(H24. 5)	前回比		
全 体	▲ 18.0	18.5	▲ 36.5	▲ 46.0
20 代	▲ 4.3	20.7	▲ 25.0	▲ 25.0
30 代	▲ 5.5	19.2	▲ 24.7	▲ 40.8
40 代	▲ 37.6	3.7	▲ 41.3	▲ 52.6
50 代	▲ 19.1	23.4	▲ 42.5	▲ 48.3
60 代	▲ 16.2	27.8	▲ 44.0	▲ 57.4

図表 2 今後半年間の景気の見通し



## 2. 収入の見通し

収入の見通し DI は▲15.8 で、前回 (▲18.5) をわずかに上回る水準であった。年代別では、30 代、40 代の改善幅が大きくなっている (図表 3)。今後半年間の収入見通しをみると、「増えそう」は、前回の 4.7%から 5.5%と微増にとどまっている。また、すべての年代において「今までと変わらない」と回答した割合が 7 割前後を占めており、収入の見通し DI は若干回復しているが、現状維持との見方をしている人が多いことがうかがえる (図表 4)。

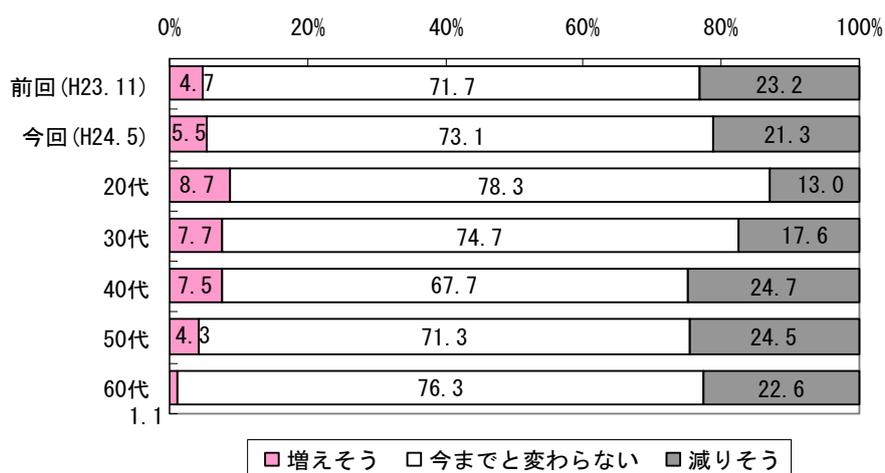
自由回答には、「収入は変わらない」、「収入増の見込みがない」という意見が目立った。また、「就職して安定した収入が入るようになった」、「雇用形態がフルタイムに変わり、収入が増えた」といった、景気回復を感じさせる意見もみられた。

図表 3 収入の見通し DI

DI=「増えそう」-「減りそう」

	今 回 (H24. 5)		前 回 (H23. 11)	前々回 (H23. 5)
	▲	前回比	▲	▲
全 体	▲ 15.8	2.7	▲ 18.5	▲ 11.6
20 代	▲ 4.3	-4.3	0.0	6.3
30 代	▲ 9.9	9.2	▲ 19.1	▲ 12.9
40 代	▲ 17.2	6.5	▲ 23.7	▲ 16.5
50 代	▲ 20.2	0.0	▲ 20.2	▲ 13.4
60 代	▲ 21.5	0.5	▲ 22.0	▲ 15.8

図表 4 今後半年間の収入の見通し



### 3. 暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通し DI をみると、前回は 9.4p 上回る▲29.3 となっている。年代別では、40 代を除くすべての年代で 10p 以上の改善がみられた（図表 5、6）。

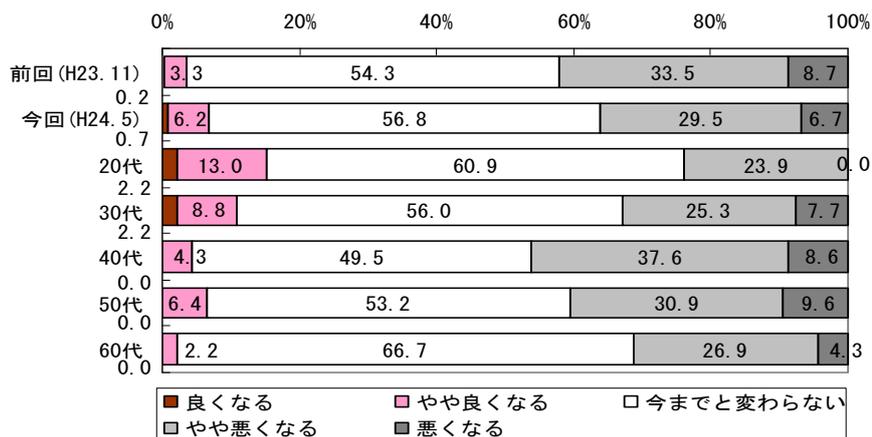
自由回答には、「自分のやりたいことを積極的に取り組みたい」、「時間的なゆとりができてきたので、旅行に行きたい」という意見や、「贅沢さえしなければ、変わらず安定できる」といった意見もみられた。前回より悪化した 40 代では、「子供の教育費は増えるが、収入は変わらない」、「教育費の負担が大きく、余裕が持てない」とのコメントがあり、教育費の負担が家計を圧迫している様子がうかがえる。

図表 5 暮らし向きの見通し DI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今 回 (H24. 5)		前 回 (H23. 11)	前々回 (H23. 5)
	▲	前回比	▲	▲
全 体	▲ 29.3	9.4	▲ 38.7	▲ 36.3
20 代	▲ 8.7	18.0	▲ 26.7	▲ 17.2
30 代	▲ 22.0	12.8	▲ 34.8	▲ 23.7
40 代	▲ 41.9	-7.9	▲ 34.0	▲ 48.4
50 代	▲ 34.1	18.0	▲ 52.1	▲ 43.4
60 代	▲ 29.0	11.7	▲ 40.7	▲ 42.7

図表 6 今後の暮らし向きの見通し



#### 4. 支出意欲の見通し

今後支出を緩めるかどうかを見る支出意欲 DI は、前回は 4.6p 上回る▲31.4 という結果であった（図表 7、8）。年代別にみると、40 代を除くすべての年代で前回は上回っている。なかでも、50 代、60 代では 10p 以上の改善になっており、「老後より今を楽しみたい」、「お金は元気なうちに楽しく使いたい」などの意見がみられた。また、40 代は、前回は 8.0p 下回る▲43.0 となっている。この年代は、子供にかかる支出が多く、なかでも教育費の負担が大きいことから、支出の引き締め意向が強くなっていると思われる。

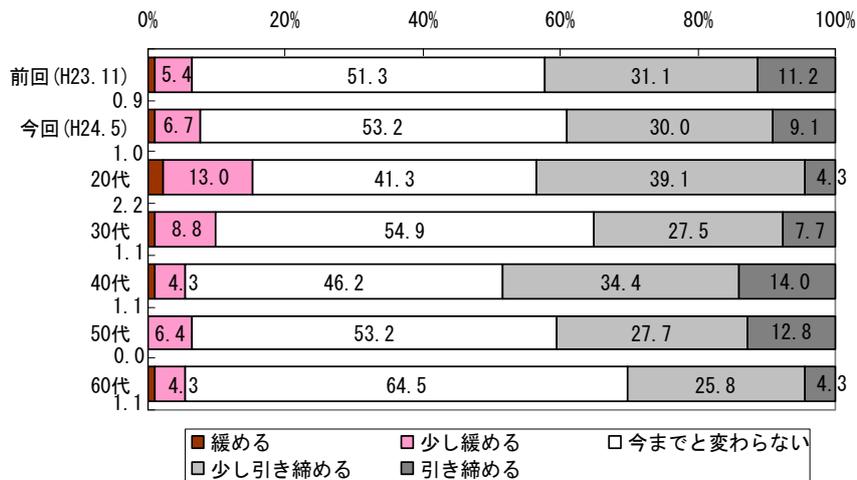
自由回答の中には、「将来のことを考えて貯蓄をしたい」、「いざという時のために貯金を増やしておきたい」という意見がみられた。今後の収入に不安を感じ、将来への備えとして貯蓄をする人が多いと思われる。

図表 7 支出意欲の見通し DI

DI=(「緩める」+「少し緩める」)-(「少し引き締める」+「引き締める」)

	今 回 (H24. 5)		前 回 (H23. 11)	前々回 (H23. 05)
	前回比			
全 体	▲ 31.4	4.6	▲ 36.0	▲ 31.0
20 代	▲ 28.2	7.4	▲ 35.6	▲ 28.1
30 代	▲ 25.3	2.8	▲ 28.1	▲ 25.0
40 代	▲ 43.0	-8.0	▲ 35.0	▲ 43.3
50 代	▲ 34.1	10.5	▲ 44.6	▲ 32.2
60 代	▲ 24.7	11.6	▲ 36.3	▲ 24.2

図表 8 今後の支出意欲の見通し

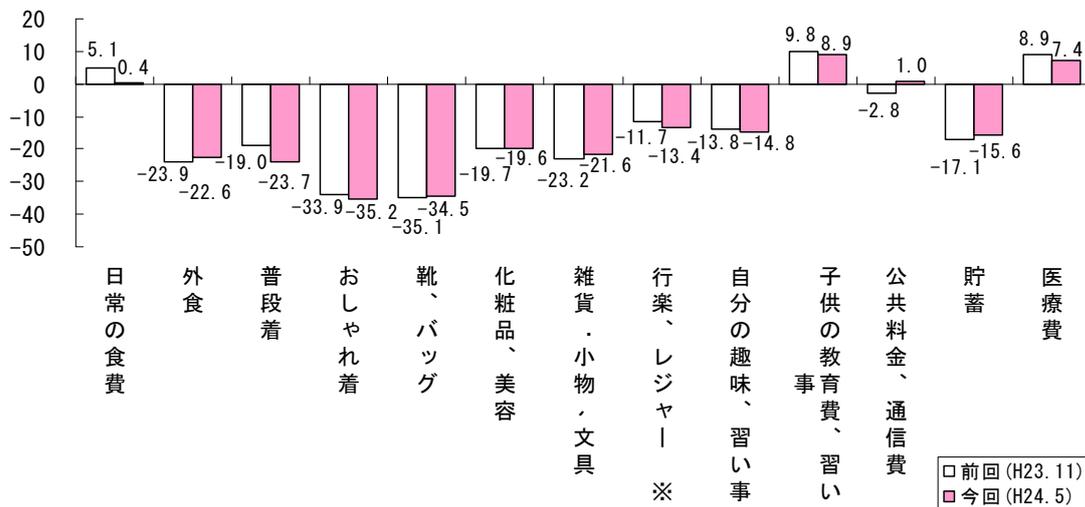


## 5. 日常的な支出の見通し

日常的な支出の見通し DI をみると、前回とあまり大きな差がみられない項目が多いなかで、「日常の食費」と「普段着」が、それぞれ前回は 4.7p 下回った。また、「公共料金、通信費」は、電気料金値上げの予測をうけて、前回は 3.8p 上回る+1.0 となり、負担の増加が懸念される。「貯蓄」は、前回より 1.5p マイナス幅が縮小しており、「将来のために貯蓄を増やしたい」という意向が反映されているようだ（図表 9）。

図表 9 日常的な支出の今後の見通し DI

DI = 「増やす・増えそう」 - 「減らす・減りそう」

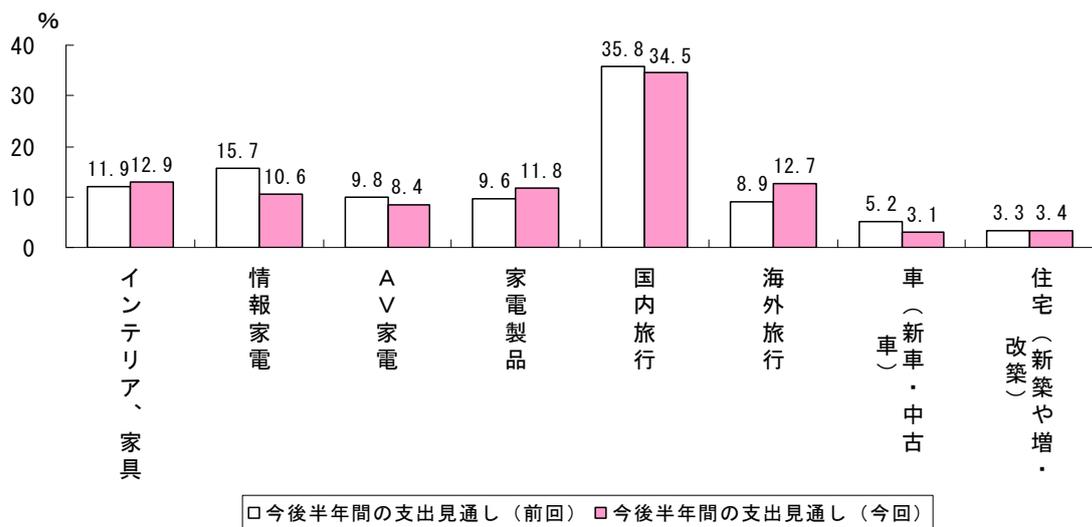


※「行楽、レジャー」は、国内旅行・海外旅行を除く。

## 6. 非日常的な支出の見通し

非日常的な支出の見通しをみると、「海外旅行」が前回は3.8p上回る12.7%であることが目につく。円高を追い風にして、海外旅行を計画している人もいると思われる。行き先には、韓国やハワイ、ヨーロッパという回答が多かった。また、「家電製品」は、前回は2.2p上回る11.8%となっている。冷蔵庫やエアコン、扇風機を購入予定とした回答が多く、今夏の節電対策としての購入と思われる。エコカー補助金で販売数が伸びている「車（新車・中古車）」については、夏にも補助金打切りが予想されることもあり、これまで半年間に購入したとの回答は多かったが、今後半年間の支出見通しでは、前回は2.1p下回った（図表10）。

図表10 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し  
支出見通し=今後半年間で購入計画ありの割合



- ※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど。  
 ※2 AV家電とは、テレビ、DVDレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。  
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

以上